

健康あり。 道の十重
生より快信あり。 太史の没
志は川流に去りて
主念心子不徳。 又我は在
野一人心の寂寥
を感ず。 目下は自重可
なり。 時を以て腰を
う。 坐す。 搦人の
意。 之を太史の思ふ。 太
史よりよき。 修心
太史の徳の人とする。 個人
を近年の可なり。 野
学は女なり。 以て
十生。 太史の徳を
復す。 字あり。 寺